

指導員(教育課副課長) 今泉 令子

7月27日、成田空港で飛行機に乗り込む16人の団員たちは、不安を感じながらもこれから始まろうとする12日間のアメリカ研修に思いをはせ、夢と希望で目が輝いていました。

初めて経験するホームステイではグレンロックの皆さんに温かく迎えられ、生きた英会話を実践し、自分の足でニューヨークの街を歩きました。後半のキャンプでは、アメリカの子どもたちの中で一緒にさまざまなスポーツを体験し、苦手な種目にも果敢に挑戦する姿がありました。

16人すべての団員にとって、そして引率した私にとっても、かけがいのない熱い暑い夏となりました。



レストランで(左)

ホストファミリーと
(左から2番目)

指導員(外国人英語指導助手)

モラン アレサンドロ

新しい体験に不安を感じていた団員を、ホストファミリーがあたたかな笑顔で迎えてくれた時、この事業はまるで魔法のようだと感じました。グレンロックで過ごした一週間は、本当に素晴らしい経験の連続でした。

異文化、食事、環境、宗教その他多くの体験とお互いの交流により、日増しに笑顔が増える団員の姿が印象的でした。

またキャンプ場では、日本にはない活動に戸惑いながらも彼らは果敢に挑戦しました。その姿がとても頼もしく感じました。帰国の際には「もっといたい。日本に帰りたくない。」という言葉が聞きました。それだけ自分自身のための貴重な体験ができたものと信じています。



キャンプ場で(右)



キャンプ場の食堂で(左)

団長(教育長) 西牧 裕司

平成27年度(第23回)「サマーキャンプ中学生の翼」は、参加団員が男子2人、女子14人の計16人、引率職員3人で実施しました。

この事業は、中学生の英語力の向上や、幅広い視野と豊かな国際感覚を身につけることを目的に行っているもので、今回は表敬訪問として大和田町長も前半のホームステイに同行しました。ほとんどの団員が初めての海外であったため、パスポート申請や出国手続きの方法などの事前研修は早く済ませ、基本的な英会話などの回数を増やして準備を進めてきました。

アメリカ滞在中の団員たちは、7日間のホームステイを経験しながらグレンロック町の図書館、消防署などの施設の見学、電車を使ってのニューヨーク市内研修、またヒルトップキャンプ場でのキャンプ研修を行いました。それぞれの研修は、団員たちにとってどれも貴重な体験となりました。

グレンロック町との交流事業は今年で23回になりました。グレンロックの街の皆さんの温かい心遣いと受け入れ体制については、毎年のことながら感謝するばかりです。

この素晴らしい体験を通して学んだことを、これからの人生の中で少しでも取り入れ、活かしていくことができれば、小野町の中学生にとって大変有意義な事業であると思います。



ニューヨークの電車内



送別会で



歓迎会でグレンロック町長と